

令和2年度 学校評価総括表				五條市立五條中学校					
学校教育目標		◎知・徳・体の調和がとれた人格形成をめざし、たくましく生き抜く生徒の育成						総合評価	
運 営 方 針		＜めざす生徒＞ ○主体的に学び、共に考え、励まし合う生徒 ○困難を乗り越えるたくましい生徒 ○ふるさとを愛し、ふるさとに貢献する生徒							
令和元年度の成果と課題		本年度の重点目標			具 体 的 目 標			B	
○生徒達の、学習に対する関心・意欲の向上が見られ、主体的かつ対話的に学ぶ意欲が高まってきた。 ○学校・家庭・地域の連携により、規範意識の向上は顕著である。 ○家庭学習の定着、及び言語活動の充実が徐々にではあるが進んでいる。 ●基礎・基本の定着が困難な生徒が少なくない状況である。その改善策としてわかる授業の展開及び、主体的かつ対話的な学習指導の工夫が必要とされる。 ●学習意欲の一層の向上に向けた取組として、将来への夢を目標を持たせる教育活動の継続する。		◎基礎・基本的な知識及び技能を定着させるための学習活動を工夫し、各教科において言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力の伸長及び自ら学ぼうとするする意欲の高揚を図る。			○言語活動の充実				
					○学習の習慣化				
					○魅力ある授業の構築				
		◎自己や他の人への理解を深め、生命を大切にすること、人権を尊重する心や自立心、責任感、正義感を育む。 ◎自尊感情(自己肯定感)を育む取組を実践する。			○人権教育・道徳教育の充実 ○個性を認めるインクルーシヴ教育の充実				
					○学級指導・特別活動・生徒会活動を通したより良い生徒集団の育成				
		◎健康で安全な生活習慣を確立させるためにも、体力の向上を図ると共に積極的に運動に取り組む態度を育てる。			○部活動の推進 ○危機管理意識の向上 ○基本的生活習慣の定着・食育の推進				
		◎PTA及び自治会等地域組織との連携を図り、生徒の「社会に参画する態度」を育成する。 ◎広域な校区をもつ統合校としての「チーム五中」の自覚及び意識を大切にし、地域の特色を生かした学校体制の確立を目指す。			PTAの活性化 コミュニティ・スクールの推進 学校新聞・学年だよりの発行 HP・ブログ・マメールにより早い情報の提供				
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)		改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
基礎・基本の定着	言語活動の充実(読書)	・朝読書・読書習慣の推進 図書館の活用 図書貸し出し冊数貸し出し目標5冊 ・「少年の主張」応募による作文活動		B	B	・読書活性化事業のおかげで、統合などで集まった本を整理・活用出来る環境が整うとともに、掲示板を利用し図書室の紹介をすることができた。おかげで貸出冊数も少しずつはあるが伸びてきている。		・自主性を養う授業づくりを構築する必要がある。公開授業を入れるなど、授業力の向上に努め、授業から家庭学習につなげていかなければならない。 ・保護者アンケート結果では約半数が、子どもに家庭学習に自主的に取り組んで欲しいと回答している。自主学習ノートの活用も含め、家庭学習の習慣化について取り組みが必要である。 ・授業においてICTを活用することは生徒の興味関心を高めるために有効である。教員の研修を持つ等スキルアップを進めたい。	・読書活動については今年度小中同じく月5冊の目標であり、つながりができていた。今後も継続して取り組めるとよい。 ・自主学習についてもつながりを持たせて、小学校から学習の習慣をつけて送り出したい。小学校からの継続した取組としたい。 ・子ども達が子どもらしい様子で、教員と和やかな雰囲気の中で授業に取り組む姿は先生方の日頃の取組のたまものであると思う。 ・勉強が苦手な生徒へのケアとして、放課後の質問教室や朝の取組があり、生徒が質問しやすい雰囲気作りがされていて良い。
	学習の習慣化	家庭学習の習慣づけ ・自主学ノートの活用 ・放課後補習及び土曜塾の開催		B	B	・自主学習に取り組む生徒が多く見受けられるようになった。しかし、その一方で家庭学習を「全くしない」という生徒の割合が約20%と増え、二極化が目立つようになった。意識の低下が問題である。 ・放課後学習及び数学塾については、積極的に参加する生徒が多かった。その一方で、基礎基本の定着につながっていないことが課題である。			
	魅力ある授業の構築(言語活動の充実)	・英語科少人数指導の活用 ・ICTの活用 ・授業研究の充実 ・地域や関係機関との連携		B		・少人数指導により、つまずきの早期解消や、授業点検・改善につながった。 ・ICTの活用でより学習しやすい環境となった。 ・小中合同の授業研究が今年度は新型コロナ感染拡大防止のため実施回数減となった。			
活力豊かな心身の育成	◎自己や他の人への理解を深め、生命を大切にすること、人権を尊重する心や自立心、責任感、正義感を育む。 ◎自尊感情(自己肯定感)を育む取組を実践する。	・学級指導・特別活動・生徒会活動を通したより良い生徒集団の育成		B	B	・学活や体育大会等の行事への取り組みを通して、旧校区ごとの集団から新生中学校のひとつの集団としてまとまりを見せてきている。しかし、校区の広域化によるバス通学生の下校時間の制限や家庭訪問の負担増による学級指導や生徒指導面での課題について検討が必要である。 ・生徒会については、旧三校の代表がリーダーとしてよく頑張りと、次のリーダーの意識を高めることができた。しかし、取り組みの方向性についてはまだ試行錯誤中である。		・生徒が目標を持って意欲的に取り組むことのできる行事については、生徒の自主性の向上を目指し工夫をしながら今後も実施していく。	・行事等工夫して取り組んでいる。生徒会の取組もこれからも活発に進めてもらいたい。 スクールカウンセラーや関係機関との連携をされている。今後も継続を。
		・人権教育・道徳教育の充実 ・個性を認めるインクルーシヴ教育の充実 ・スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの活用		B		・道徳の研究授業を設け、学年で課題を練ることができた。 ・自尊感情を高める取り組みができており、自他を認められる生徒が育ってきている。職員及び生徒の人権感覚を継続しさらに養っていかなければならない。 ・スクールカウンセラーを活用した授業の取り組みや、長期欠席者への面談支援等様々な場面で生徒への登校支援等充実した取り組みができた。			
	◎健康で安全な生活習慣を確立させるためにも、体力の向上を図ると共に積極的に運動に取り組む態度を育てる。	・部活動の推進(加入率80%) ・危機管理意識の向上		A	A	・クラブの加入率は今年度85%である。 ・避難訓練を通して日常に起こるものとして、自覚をもたせることができた。また、五條警察を招いての安全教室を実施し、安全な自転車通学についての講習も行った。 ・夏期休業短縮により地域と連携しての防災訓練を今年度は中止することとなった。		・避難訓練・避難所設置訓練等の取組について、コロナ禍で中止となったものについて次年度は実施の方向を探る。	・広い校区ゆえの課題について、先生方にはご尽力いただいている。これからも細やかな生徒指導と地域との連携をお願いしたい。
		・基本的生活習慣の定着 ・食育の推進		A		・早寝早起きを励行し、家庭学習を通して、基本的生活習慣の充実を促進している。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながらであったため、学校行事等を通して学習する機会が激減した。しかし、保健だよりや保健委員会の取り組みで、より身近なものとして「食」について捉えることができた。			
特色ある学校作り	◎広域な校区をもつ統合校としての「チーム五中」の自覚及び意識を大切にし、地域の特色を生かした学校体制の確立を目指す。	・校務分掌・生徒会組織・学校行事・教育活動の精選と見直し		B	B	・新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながら体育大会や合唱コンクール等出来る学校行事に取り組むことで生徒興味関心や協調性を高めることができた。 ・生徒会組織については3つの中学校の行事を引き継ぎながら運営を進めている。		・生徒会活動においては昨年度までの各学校の伝統を守りつつ、生徒が主体となって様々な取り組みを検討し、精力的に活躍の場を設けていきたい。 ・旧三中それぞれの地域の特色をバランス良く取り入れ、五條市全体を意識したふるさと学習となるような工夫を進める。	・三中の特色を生かしつつ、新生中学としての取組を進められている。これからもより良い行事や組織運営を目指していただきたい。
		ふるさと学習・五條学の実施		A		感染拡大防止のため中止となった浴衣の着付けについては、次年度2学年で開催予定である。今年度からの柿の選果場体験の他にも、地域学習の取り組みを進めたい。			
	◎PTA及び自治会等地域組織との連携を図り、生徒の「社会に参画する態度」を育成する。	・地域と連携したキャリア教育の実施 ・PTAの活性化 ・コミュニティ・スクールの推進		B	B	・1年の職業体験については実施出来たが職場体験学習については直前に中止となった。来年度は開催を実現したい。 ・PTAの活動、及びコミュニティスクールの推進がコロナ禍で思うように実施出来なかった。		・メール連絡の即時性やフォームの利用による保護者アンケートの有効性が実感された。さらに有効な活用方法を考えたい。 ・ブログについては更新回数を増やすとともに、保護者への広報に努めたい。	
今年度の成果と次年度への課題		[成果] ・先生方の協力の下、統合校として三校の取組を受け継ぎながら、学習活動や学校行事等、新生五條中学校としての基本方針をほぼ定めることができたとともに、目標とした活動の大半を実施することができた。 ・統合校として、生徒指導面の様々な問題や課題が想定され、保護者から不安の声があったが、大きな混乱や問題が起こることなく、生徒たちが自主的に活動できている。 [課題] ・コロナ禍で中止した行事及び取組の、実施可能な形について検討が必要である。 ・校区が広域であることによる、スクールバスの運行や警報発令時の対応等の課題について対応方法の検討が必要である。 ・小中一貫校として、今年度実施出来なかった合同研修・授業交流等の開催方法を工夫する。 ・基礎学力の向上について、学習内容の振り返りやICTを活用など授業方法の工夫等教員の授業力向上を進めるとともに、読書活動・自主学習ノート等小中中で連携した取り組みを推進する。 ・非常に広域な本校の校区における実施可能な地域連携の形を整える。							